

2023年度南山大学大学院法務研究科法務専攻

＜専門職学位課程＞ 入学試験 B日程

(2022年10月1日実施)

試験科目：法律科目試験・刑法

配点：100点

以下の問題文を読み、AとBの罪責を論じなさい。

【問題文】

1. Aは恋仲であるBと兵庫県宝塚市で2020年春頃から同棲していたが、Bの父親であるCはAとBとの交際に反対であり、AとCの仲は険悪であった。
2. 2020年12月10日、Bは妊娠3か月でありAの子を身ごもったことをAに告げた。当然Aは喜んだが、他方Bは同日午後7時に妊娠したことを三重県尾鷲市に住んでいるCにも告げた。電話を受けたCは逆上し、「翌日11日朝9時にA宅に行きAに抗議する」旨電話でBに通告した。
3. 電話を切った後、BはAに事情を説明した。Aは、Bに対して「参ったなあ。君のお父さん、前から喧嘩っ早くて傷害事件を起こしたこともあつたらう……。以前、尾鷲市の居酒屋で近所の兄ちゃんと言論して、家から包丁持ち出してきて刃傷沙汰の事件を起こしたことは君も覚えているよね。明日、興奮してお父さんが攻撃してきたら、俺も反撃するつもりだからね」と言った。Bは万が一の事態に備え、台所に置いてあった果物ナイフを「護身用」にAに渡した。
4. 2020年12月11日午前9時過ぎ、A宅を訪問したCとAは口論となり、果たしてCが突然金属バットでAに殴りかかってきた。Aは冷静に身をかわし、予め準備していた果物ナイフでCに反撃をした。Cは腹部から出血をし大怪我をした。
5. その後AはBと相談の上、Cを尾鷲市の山中に遺棄するつもりで、怪我をしたCを自家用車に入れ、2020年12月11日午後1時にA宅を出発したが、Cは同日午後3時にAの車の中で出血多量で死亡した。
6. なお、AとBは病院に行かないとCの生命は保全されないとの認識を自家用車に乗せる時点で有していた。また、AとBが、2020年12月11日午後1時から午後2時30分の間に、Cを病院に運んでいれば、Cは確実に救命されていたことが裁判時に判明した。

2023年度南山大学大学院法務研究科法務専攻

＜専門職学位課程＞ 入学試験 B日程

(2022年10月1日実施)

試験科目：法律科目試験・憲法

配点：100点

以下の文章（フィクション）を読み、【設問】に答えなさい。

政府は、国家財政の悪化と国家公務員の給与水準が民間企業と比較して高いことを理由として、国家公務員の基本給を0.23%引き下げる人事院勧告に従わずに、国家公務員の基本給を平均7.8%引き下げる政策を打ち出した。これに対してA省の職員で組織されるB労働組合は、同政策を撤回させるための争議行為を計画し、勤務時間中に職場内で集会を開催することを決定した。B労働組合の役員であるYは、組合員に対して職場離脱をして職場集会への参加を指令し、実際に多くの組合員が職場集会に参加した。

Yは、組合員に対して争議行為の遂行をあおったとして、国家公務員法98条2項、111条の2第1号に該当するとして起訴された。

国家公務員法

98条2項 職員は、政府が代表する使用者としての公衆に対して同盟罷業、怠業その他の争議行為をなし、又は政府の活動能率を低下させる怠業的行為をしてはならない。又、何人も、このような違法な行為を企て、又はその遂行を共謀し、そそのかし、若しくはあおってはならない。

111条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、3年以下の禁錮又は100万円以下の罰金に処する。

- 一 何人たるを問わず第98条第2項前段に規定する違法な行為の遂行を共謀し、唆し、若しくはあおり、又はこれらの行為を企てた者
- 二 〔省略〕

【設問】

Yは、国家公務員法98条2項と同111条の2第1号は違憲であると考えている。Yは、どのような憲法上の主張をするかを述べ、それに対するあなたの見解を論じなさい。

2023年度南山大学大学院法務研究科法務専攻

＜専門職学位課程＞ 入学試験 B日程

(2022年10月1日実施)

試験科目：法律科目試験・商法

配点：100点

次の文章を読んで、各設問に答えなさい。

Y株式会社は、上場会社ではない公開会社であり、譲渡制限株式を発行していない。Xは、Yの創業者であり、Yの総議決権の3分の2を有する唯一の代表取締役であるが、近年は高齢で入院が続いていた。Yの経営を一手に任されていた専務取締役Aが、Yの支配権獲得を狙っていた。令和α年9月16日に取締役会を招集し、Xの長期療養を理由としてAを代表取締役に選任する旨の決議を行った。同年12月6日、取締役会決議を経ることなく、AはAに対する第三者割当増資を行った（以下、「本件新株発行」とする）。本件新株発行により、Aの持株比率が51.9%となった。

[設問1] 本件新株発行に係る手続には、会社法上、どのような瑕疵があるかを論じなさい。

[設問2] Xはどのような会社法上の手続等をとれるかを論じなさい。

2023年度南山大学大学院法務研究科法務専攻

＜専門職学位課程＞ 入学試験 B日程

(2022年10月1日実施)

試験科目：法律科目試験・民法

配点：200点

以下のⅠおよびⅡに解答しなさい。

* 解答の順序は問わないが、大問番号（ⅠまたはⅡ）および設問番号を明記すること。

* 解答用紙は、大問ごとにページを分けて用いること。

Ⅰ 以下の文章を読んで、[設問1] および [設問2] に答えなさい。

A村に温泉街があり、村民の多くは温泉にかかわる仕事によって生計を立てていた。この温泉は、Y会社が約1000万円の費用を投じて完成された引湯管によって遠方にあるB温泉源から引かれていた。Yは引湯管を引く際、わずか8㎡であるが、Cの所有地上にCの許可なく引湯管を通していった。この事情を知ったXは、Cからこの8㎡を含めて約1万㎡の土地（以下、「本件土地」という。）を3万円で譲り受けて、自己名義への所有権移転登記を行ったあと、600万円で買い取るようYに求めたが、Yは拒否した。

本件土地は、非常に急な傾斜地にあつて利用価値がほとんどなく、時価4万円程度であつた。また、引湯管を本件土地から移転して再度設置するのは技術的には可能であるが、その費用は1500万円程度かかり、温泉街は約1年間の休業を余儀なくされると予想された。

[設問1] Xは、本件土地から引湯管の除去をYに求めて、提訴した。Xの請求が認められるべきかについて論じなさい。

[設問2] [設問1]のXの請求が認められない場合、ほかにYに対してどのような請求が考えられるかについて論じなさい。

Ⅱ 以下の文章を読んで、[設問] に答えなさい。

不動産売買等を目的とするY会社は、屋内プール、テニスコート等のスポーツ施設付のマンションを建設し、分譲することを計画した。2021年4月にマンションが完成し、スポーツ施設は順次建設され、最後に屋内プールが同年10月に完成する予定であつた。マンションは、スポーツ施設の利用が可能となる会員権とあわせて販売されていた。

水泳を趣味としており、屋内プールの利用にひかれたXは、2021年1月、Yからマンションの一区画と会員権を購入（以下、それぞれ「本件売買契約」、「本件会員権契約」という。）し、各代金を支払つた。

2021年4月、予定通りマンションは完成し、Xは入居した。その後、スポーツ施設は順調に完成していき、Xは各施設を利用していた。もっとも、屋内プールのみ、完成予定時期を過ぎても着工されなかつた。屋内プールの完成を心待ちにしていたXは、Yに対し、遅れている屋内プールの着工・完成を再三要求していたものの、2022年10月、YはXおよび他のマンション住民に対し、当初の計画を断念し、屋内プール建設に着工しないことを明示した。

[設問] Xは、本件売買契約、本件会員権契約いずれも解除したいと考えている。Xによる解除は認められるかについて論じなさい。なお、本件売買契約と本件会員権契約は別個の契約であるものとする。

以上